

## セッション 9 : 『Paclitaxel 分割投与法』を終えて

濱 島 吉 男

獨協医科大学呼吸器内科

進行非小細胞肺癌に対する化学療法については、今日ではプラチナ製剤と新規抗癌剤との併用が主流になっている。4つのレジメンでの比較試験( ECOG1594, 2000年 ASCO )を代表とする多くの比較検討がなされ、それらの結果では、各レジメン間での生存期間に有意差がみられないことから、各種新規抗癌剤とプラチナ製剤を用いた化学療法の有効性はプラトーに達した感がある。その中で PTXL + CBDCA の併用療法は他の新規抗癌剤 + CDDP の併用療法と同等の生存期間を有し、また有害事象のプロフィール・耐用性の点では他のレジメンに比べて優れているとして ECOG, SWOG の大規模臨床試験グループではリファレンスアームとしている。

本セッションの両演題においては、PTXL は従来の 3 週間毎の投与ではなく、少量分割投与する weekly あるいは bi-weekly な投与法で検討されている。weekly 投与法は、1 回の投与量を減じて頻回投与することにより、腫瘍細胞に再増殖の時間を与えない dose-density の概念に基づいており、本セッションでも比較的良好的な抗腫瘍効果と、骨髄抑制や末梢神経障害などの毒性軽減傾向が示された。さらに TAXOL は 1<sup>st</sup> line, 2<sup>nd</sup> line としても選択されることが示された。

今日、生存期間と QOL の維持・向上を目的とした外来化学療法の重要性が高まっているなかで、進行非小細胞肺癌に対する PTXL + CBDCA 分割投与法は期待されるレジメンの一つであると考えられる。

### REFERENCES

1. Schiller JH, Harrington D, Chandra C, et al. Comparison of four chemotherapy regimens for advanced non-small-cell lung cancer. *N Engl J Med.* 2002;346:92-98.
2. Beloni CP, Borstis J, Perry MC, et al. Multicenter, randomized trial for stage IIIB or IV non-small-cell lung cancer using weekly paclitaxel and carboplatin followed by maintenance weekly paclitaxel or observation. *J Clin Oncol.* 2003;21:2933-2939.
3. Glantz MJ, Choy H, Akerley W, et al. Weekly paclitaxel with and without concurrent radiation therapy: Toxicity, pharmacokinetics, and response. *Semin Oncol.* 1996;23:128-135.